

日程	平成29年8月7日(月)～8月8日(火)
視察先・視察内容	①石川県小松市:社会福祉法人西園寺の運営について ②石川県白山市:社会福祉法人B,sプロジェクトについて ③石川県金沢市:Share金沢について

概要 社会福祉法人佛子園:障がい者の働く場や高齢者向けの介護施設などを運営。

①石川県小松市:社会福祉法人西園寺の運営について

視察場所 三草二木 西園寺
(高齢者デイサービス10名 生活介護6名 就労継続支援B型14名)

西園寺 平成17年4月に住職が逝去し、後継者が決まらず廃寺となった。その後、佛子園が相談を受け、「障がい者の参画」と「地域の協力」を条件に地域コミュニティ施設として再建された。地域コミュニティーセンターとしての役割をも担う施設として、この地区の特性である温泉を掘り、住民のよりどころとして開設された。温泉を始め、昼はカフェ夜は酒場となる飲食施設、駄菓子屋など町民が訪れる場となっている。西園寺の所在する野田町住民は温泉は無料。



施設の利用として。町民が集う憩いの場として新年会や子ども会、敬老会など年中利用されており、町内の採れたて農産物や手工芸品を販売する「市」が定期的に行われている。もちろんお堂はフリースペースとしてコンサートなどのイベントにも対応。

西園寺は介護施設であり、お寺であり、地域コミュニティーセンターである。また訪れる人は様々であり、佛子園理事長が提唱する「みんながごちゃ混ぜで暮らせるまちをつくる」の原点となる施設である。

西園寺における「ごちゃ混ぜ」を考える

①高齢者………	デイサービスの利用	働く場(ワークシェア)	憩いの場
②障がい者………	働く場(就労継続B型)	生活介護の利用	
③野田町住民……	温泉利用	「市」の利用	カフェの利用
④子ども………	遊び場として	駄菓子屋	

この4者が「特別」な関係ではなく、「日常」にするために、「ごちゃ混ぜ」を地域に根ざすことを目的としている。

もちろん福祉拠点として、高齢者デイサービスのそのカフェを利用した食事や趣味の講座が充実し、障がい者の生活介護としてリラックスできる空間として存在している。ワークシェアや就労継続として、特産品を(味噌・漬物など)作るなどの地域ならではの工夫もなされている。



①石川県小松市:社会福祉法人西園寺の運営について



足湯(無料)



温泉(野田町民無料)



温泉(露天風呂)

②石川県白山市:社会福祉法人B,sプロジェクトについて

視察場所 **B,s行善寺**

施設内にて、内科診療所・0～2歳少人数(各4名)保育園・児童発達支援・放課後デイサービス・保育所訪問・花屋・相談支援所・就労継続A型・就労継続B型・生活介護・配食事業生活支援ステーション・グループホーム・体育館・スポーツジム・プール・カフェ・カラオケ・食事処・クッキングスタジオ・温泉・足湯・駄菓子屋・マッサージルーム・プレイゾーン(外)などがある。



足湯(無料)、温泉(町民無料)
他、西園寺にあったサービスを
基にさらなるサービスを付け加
えた施設として視察を行う。
西園寺での「ごちゃ混ぜ」の理念
がさらに広がっている。



スポーツクラブでは、一般会員
登録者は600名を超え、休日
には定期的に100名以上の会員がジムやヨガ等の教室を楽しんで
いる。(一ヶ月4000円)ジムとプールが、B型就労の場でもあり、
福祉サービスでもあり、一般会員と同じ空間で過ごす。
高齢者デイサービスではリハビリに特化し、機能訓練や身体介護
を中心に、児童発達支援では親子でジムスタジオで日常生活に
おける基本動作を習得する、放課後デイサービスでは地域住民と
交流しながらジム・プールでともに汗を流している。
マシントレーニング、プールエクササイズ、健康講座等、各プログラム
は充実している。



生活介護のサービスに含まれており、無料で利用可。
カラオケルームや体育館なども無料で利用可。



スポーツクラブ・花屋・カフェ・食事処等でB型就労で
働く人がいて、介護保険での加点サービスがあり、
一般の人でも利用できる。

近隣住民が気軽集える場であり、日常の中で人の
つながりを作りだすことで地域を盛り上げていく。
施設のすべてがつながり、子ども・高齢者・障がい者・
地域住民が「ごちゃ混ぜ」で暮らせるまちづくりのヒント
となりうる。

行善寺では健康促進事業内容を中心に多機能地域
医療福祉連携の住民自治モデルの確立を目的と
している。

あらゆる人が集まりつながる駆け込み寺といった言葉
がしっくりくる施設である。

②石川県白山市:社会福祉法人B,sプロジェクトについて



プレイゾーン



フリースペース(就労支援など) 地域物産販売所



③石川県金沢市:Share金沢について

視察場所 **Share金沢**

西園寺において高齢者と障害者と子どもと地域住民をつなぐ施設づくりを実践し、行善寺においてそのつながりをさらに大きくしていき、健康促進のキーワードを加えた。また医療と福祉連携を実践し、保育園や児童発達支援等の子どもから、近隣グループホームとの連携や配食サービスなど高齢者まで西園寺からスケールアップした施設づくりを行った。
Share金沢は単独の施設だけでなく、まちづくりを実践した。

総面積(11000坪)

入り口には北陸鉄道のバス停がある。

SOUTH地区

- ①温泉・レストラン・配食サービス・カラオケ
高齢者デイサービス・生活介護・訪問介護
ギャラリー・事務所を含む本館施設1棟

EAST地区 ①児童入所施設2棟②児童発達支援所③クリーニング & コインランドリー

- ④倉庫・作業所⑤地域スポーツシステム研究所⑥自然学校(学童保育も行う)
⑦アトリエ付き学生向き住宅⑧全天候型グラウンド

MIDTOWN ①児童入所施設2棟②サービス付き高齢者向け住宅4棟③学生向け住宅6棟

- ④産前・産後ケア施設

NORTH地区

- ①日用品・生活雑貨店②マッサージ店③ブータンセレクト店④デザイン会社
⑤音楽バー⑥キッチンスタジオ

WEST地区 ①アトリエ付き学生向け住宅②サービス付き高齢者向け住宅2棟

- ③ウクレレ教室⑤農園⑥ドッグラン⑦アルパカ牧場



本館の温泉は西園寺・行善寺と同じく天然温泉で地域町民は無料。ギャラリーは地域の人に無料開放。レストランからの眺望はShare金沢EAST地区の町並みと自然が見渡せる。レストランはバラエティ豊かな無国籍料理メニューが充実し、町の総会や子ども会行事などにも使用されている。販売所では地産野菜を中心に加工品やリサイクル品も並ぶ。



地産販売所



レストランより撮影

サービス付き高齢者向き住宅は木の温もりのある木造住宅で、1DK家族はもちろんペットとも一緒に暮らせる。テラスから自然の景色、リビングサロンなど共有スペースも充実している。散歩や農園作業、元気な高齢者は日用品店などでスタッフとして働くことも可能である。固有スペースと共有スペースが充実している。

③石川県金沢市: Share金沢について



学生向け住宅



ウクレレ教室



アトリエ付き学生向け住宅



全天候型グラウンド アルパカ牧場・ドッグラン



クリーニング店



自然学校(学童保育)

所感

社会福祉法人佛子園の運営する施設、西圓寺・行善寺・Share金沢と順に視察した。グループホームから始まったのだが、障がい者・高齢者と地域住民をつなげるための「ごちゃ混ぜ」の考え方から変化していった。また子どもを呼び巻き込むことで、気楽な寄り合い処の場を作った。三施設とも天然温泉を掘り、地域住民は無料といったサービスなど地域と一体化して運営していく姿が強く感じられた。西圓寺が運営を始めてから、近隣の世帯数が増、また西圓寺は運営6年目より独立採算がとれており、日本全国注目の施設である。

行善寺は西圓寺の施設を基準に拡大・進化の形態であると認識した。診療所・保育園・発達支援・放課後デイサービスの分野を新たに設置し、スポーツジム・プール・体育館・プレイゾーンと健康面での進化拡大、カラオケなどの遊戯空間も増えた。近隣のグループホーム・医療機関との連携も強化され、この施設が中心となるまちができる。あらゆる人があつまり、つながる駆け込み寺との表現が物語っている。

Share金沢にいたっては、子どもから大学生、高齢者まで、世代や障害の有り無しを超えて、いろいろな人がつながり、地域社会づくりに参加する「まち」へとさらに進化拡大した。集いや催し事の開催や運営、暮らしに関わることは、住民参加で決めていく住民自治のある「まち」となった。従来の病院や福祉施設には、サービスを必要としない人を集める仕組みがなく、佛子園の「ごちゃ混ぜ」の「まち」には年齢・障害や病気の有り無しに関わらず、様々な人が関わり合いつながっていく。高齢者の介護予防や健康寿命の延伸を地域密着で進んでいく。また子ども達は日常から福祉に関わり、福祉の重要性や人の生きがいややりがいを考えていく。

行政への提言がすぐにはできない視察内容ではあるが、世界どの国も経験したことのない超高齢社会を迎える我が国において、佛子園の「ごちゃ混ぜ」のまちづくりは参考になる事例であると言える。今視察を福祉だけではなく、社会教育やまちづくりの方向性の模索といった意味においても今後の提言につなげたい。

就労付サービス付き高齢者住宅の充実にも取り組むべき。高齢者の生きがい・やりがいをもっと地域コミュニティーへ。今視察の取り組みを本市のまちづくりや高齢者世帯が多くなる地域での参考事例としていきたい。空き家・空き地の利活用から既存する施設利用まで、「ごちゃ混ぜ」にして地域づくり・まちづくりを進めていく事は、行政から既存の支援や新たな施策を含め本市で取り組み可能と考え、総合的に研究を続け、岡崎版「ごちゃ混ぜ」福祉まちづくりを計画していきたい。

